

第2回 清瀬市地域づくり応援制度検討委員会 会議録

1 開催日時

令和5年11月14日（火）18時30分から19時30分まで

2 場所

清瀬市役所3階 会見室

3 会議内容

(1) 開会

(2) 清瀬市地域づくり応援補助事業（案）についての事務局説明

清瀬市地域づくり応援補助事業（案）について事務局から説明を行った。

(3) 委員から地域福祉活動応援助成についての説明

- ・上限額として継続的にたすけあい活動に3万円。備品整備費と設備整備費は5万円。他に10万円がある。
- ・例年3次募集までしていた。コロナもあけて2次募集で上限をむかえた。13団体の募集があった。
- ・新しく団体を立ち上げ助成としてチャレンジ枠を設けた。ハードルを下げるために規約は必要なしとした。総額30万円とし、2団体の応募があった。団地住民の方が電球交換など生活支援の団体。スマホの購入やありがとう券の印刷代。フェスティバルザレインボー。LGBTQのイベントを行う団体。
- ・通常枠がたくさんあったのでチャレンジ枠を通常枠に移して行った。

(4) 委員意見交換

- ・地域づくり応援補助事業と地域福祉活動応援助成は、内容的に重複しているところもある。地域福祉活動応援助成は、行政機関の補助を受けていないことが条件となっている。しかし、総額が増えることもあるため重複してもいいのではないか。
- ・お金よりも立ち上げのノウハウや知識が不足しているのではないか。お金があってもどのように使っているかわからないのではないか。
- ・毎年助成金に頼らず自主財源を確保する方法を組み立てていかななくてはいけないのではないか。
- ・継続は会場費がかかる。
- ・自主財源は参加している人に払ってもらえない。なかなか難しい性質

もある。行事用の保険も多い。

・地域福祉活動応援助成のチャレンジ枠については、今までなかったものを作った。継続については大事なところである。まだチャレンジ枠については試行段階である。今後数年を見ていく必要がある。

・岩倉市でよい取り組みをしていた。行政提案協働事業コースというもの。テーマを決めて募集する。いいところは行政のノウハウを協働で相談してできる。すごく面白い。実現するのに誰かと共同してやっていく。ネットワークも一緒に活用できる。なかなかチャレンジコースで実現しないのではないか。

・町内会で会長10年やっていたが解散した。自治会がどうすれば継続できるのか、行政と一緒に相談などをしながらできるといい。補助金をあげてあとは任せるというのではなく伴走者がいるなかでできるといい。

・退職者や50代の地域活動をしたい人に対して助成を厚くするといいいのではないか。

・既存の団体なのか、立ち上げの団体なのかということもポイントとなる。また対象事業に課題解決に取り組むことを対象とするのか。

・清瀬三小の花壇づくりで東京都のみどりの基金を3年間助成を受けている。コーディネーターの生涯学習スポーツ課から情報を受けて実施している。

・助成金の情報が市民のほうに伝わりづらい。わかりやすい一覧があるといいいのかなと思う。

・分野ごとに情報がまとまっている。障害者や環境分野でもいろいろある。地域を支援する会議があつて地域の方々に情報を提供できる分野横断的な情報提供ができるところがあるといいい。

・子ども食堂でいうとなかなか続かない。何か立ち上げたときのノウハウを教えてくれるところがあるといいい。

・補助金の内容もわからない。場所はどこが空いているかの情報もわからない。こういうところが使えるという情報があると始めるほうはわかりやすいと思う。

・助けてくれる人がいる体制。プラットフォームがあると地域活動が活性化するのではないか。そこに課題があるのではないか。横のつながりができると様々なスキルを活用することができるのではないか。掘り起こしができると思う。行政や社協と伴奏型でできるといいのではないか。

・社協のチャレンジ枠は社協がサポートしていくことを前提としている。新たな補助金についてもフォローする仕組みが必要である。

- ・地域活動立ち上げ講座のようなものを開催してそこで補助金の情報提供をしていくのもいい。
- ・プレゼンをする機会を作る。プレゼンをする場ができるとノウハウとスキルを共有できる。助成金をだすのではなく、そういった機会を創出するのもいいのではないか。助成金をだして勝手にやれではなく、社会の資源を活用できる仕組みがあるといい。
- ・子どもたちに投票してもらうところがある。投票されなかった団体はショックを受けてしまう。やり方を考えないといけない。
- ・立ち上げを行政のものを活用し、継続を社協を使うなどしていくなど考えられる。
- ・社協の助成金とは重複しないほうがいい。
- ・マッチングコーディネーターへの謝礼の費用に対する助成を入れていただくといいのではないかと考えている。人によっては謝礼があると責任感にもつながるのでそういった仕組みがあるといい。
- ・有償ボランティアの謝礼は必要。やっていることへの実感になる。無償のボランティアではなく、有償ボランティアにすることによってやりがいになるし、尺度になる。助かっているのか実感が無い。謝礼があることによって役立っていると感じることができる。
- ・お仕事をすることによって形になるものがあるといい。会場費は助成総額として絶対に必要と思っている。常設の拠点を設置したときに、そこにいれば誰かがいる、誰かに相談できるということが地域づくりにとって有用なことだと思う。常設の拠点に対する助成があるといい。
- ・さいたまは地区社協に100万円だしている。そこで人件費を使っている。地域づくりの会や円卓会議に地域支援するとき人件費として助成するというところもあるのではないか。
- ・空き家を使ったときの固定資産税の問題がある。減免するか助成するか。費用総額がどれぐらいあるのかによって変わってくる。
- ・常設のところで1日500円だしているところがある。そういうところを対象とするかどうか。

(5) その他

次回日程等について事務局より報告をして閉会となった。